

日経平均株価

1万6254円45銭
▼0円44銭 (前日比)

TOPIX

1279.90
▼3.09 (前日比)

2016

8/8

月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



東証では続々と決算が発表される



内需に好内容目立つ

第1四半期決算銘柄をチェック

日銀金融政策決定会合などの重要イベントが通過し、8月中旬は手掛かり材料難から夏枯れ相場の色彩が強まりそう。そのようななかで物色の方向性は、好業績株の押し目買い。第1四半期決算が続々と発表されるなかで、円高の影響から電機や自動車などの輸出関連が苦戦する一方で、内需では好調な銘柄が目立っており、これらの銘柄を再度チェックしたい。

低位なら意外高も

3月決算企業の第1四半期決算では、輸出関連企業で事前の懸念通り、円高による大幅減益や下方修正が相次いだ。第1四半期で40%営業減のオムロン(5401)など、一方、好調な決算が相次いでいるのが内需関連。第1四半期で36.6%営業増益の江崎グリコ(2206)や吉番屋(7630)、連結化で64%営業増益のハウス食品グループ本社(2810)など食品大手で大幅増益が相次いでいる。

ロン(6645)や第1四半期で赤字転落の新日鉄住金(5401)など

また、低位で値ごり感がある銘柄では上方修正をキツカケに人気化している銘柄も少なくない。その代表格は姫路に本拠を置く鉄鋼鑄型の虹技(5603)で、決算発表後の短期急騰後には高値警戒感もあるが、利食い売りなどで調整した場面は、好決算銘柄なら押し目買い好機となる。

日経平均日足チャート



ミロク情報の日足チャート



ミロク情報続騰し高値

1Q52%営業増益で自社株買いも

週明、営業利益10億4700万円(同52.6%増)と大幅な増収が達成したことに加え、上層23万株、総額3億円の自社株買いを発表した。

28)が継続、年初来高値を更新した。今3月期第1四半期連結決算は、売上高64億9100万円(前年同期比10.2%増)、営業利益39億3000万円(同29.3%増)と従来見通しを据え置いたが上ブレ期待が高まりそうだが、総額3億円の自社株買いを発表した。

今週の動意銘柄

ウシオ電機高で今期減額

1日、ウシオ電機(6925)が急落。今17年3月期の連結業績予想を売上高で1900億円から1700億円(前期比5.1%減)へ、営業利益で135億円から90億円(同31.5%減)へ下方修正したことを嫌気

カジノ関連再人気

1日、オーイズミ(6428)やくろがね工作所(7997)、テックファームホールディングス(3625)などカジノ関連が再び買い進まれた。東京都知事に就任する小池百合子氏は国際観光産

日本LL連続S高で最高値

今3月期大幅上ぶれを引き続き好感

2日、日本ライフライン(7575)が連続ストック高で最高値を更新。17年3月期第1四半期連結決算は、営業増収、2.7倍

ヒロセ通商S高

1日、ヒロセ通商(7185)がストック高。今3月期第1四半期連結決算は、為替取引活発化で口座数、預かり証拠金が急増、実質大幅増収増益になった。

日光電一時Sで安値

2日、日光電(6849)が急落、一時ストップ安まで売られ年初来安値を更新した。

ポケモン関連再度買い

2日、任天堂(7974)やメガチップス(6875)、サノヤスホールディングス(7022)、イなど「Pokémon GO」関連が再度買い進まれた。ポケモンとNintendoがサービスするスマホアプリ「Pokémon GO」で7月31日にアップデートが実施され、マップのバグやメモリー問題などが改善、これによりユーザーの利便性が向上した。今後発売が予定されている周辺機器「Pokémon GO Plus」への販売にもアップデートによる操作性向上はプラスに働くと見られ、目先の売り一巡とともに関連銘柄は買い戻しの動きとなった。

企業観察 神戸製鋼所 (5406)

国内は下期回復へ

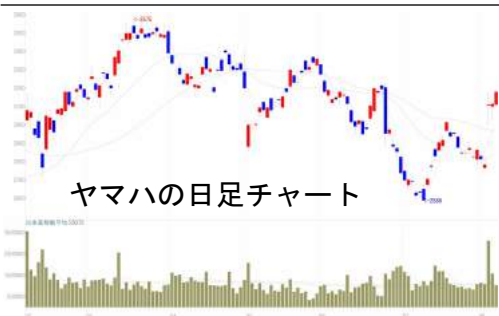
神戸製鋼所 (5406) の株価は調整を続けていたが80円台で落ち着く動き。時価は7月上旬の80円台前半での揉み合いゾーン以来の水準であり更なる下値不安は少ない。

7月29日に発表した今17年3月期の第1四半期(4~6月)決算は売上高404.4億円(前年同期比12.1%減)、営業利益12.7億200万円(同49.7%減)と減収減益となった。鋼材の販売数量は造船や自動車向けが堅調に推移したものの、主原料価格の値下がりや円高の影響で販売価格が前年同期を下回った。通期予想については売上高で従来

高炉改修は一時的圧迫要因

予想の1兆7500億円から1兆7300億円(前期比5.1%減)へ、営業利益で650億円から500億円(同26.9%減)へ下方修正した。円高や原料価格変動による鉄鋼やアルミ・銅での在庫評価影響の悪化や、輸出や海外事業における為替の影響、建設機械における販売台数減などを考慮している。加えて下期に加古川製鉄所において高炉改修を行うことも影響する。

しかし、高炉改修は一時的な要因で、下期からは国内については回復に向かう見通し。つれて業績、株価とも浮上が期待される。



ヤマハの日足チャート

コストダウンで粗利率が大きく改善した。

3日、ファミリーマート(8028)が統騰、一時ストツプ高まで買われ、連日で年初来高値を更新した。日本経済新聞が同社株をユニグループ・ホールディングス(8270)に代わり、日経平均構成銘柄に新規採用すると発表した。

Fマート新値追

3日、日本マイクロニクス(6871)がストツプ高。「最近」は受注が回復傾向にある」との報道が材料視された。5日に発表予定の16年9月期第3四半期決算ではスマホ市場の成長減速で半導体用検査器具の出荷は減少の様相だが、「年末商戦に向けスマホの生産台数が持ち直しつつある」という。

ヤマハ上方修正で急伸

3日、ヤマハ(7951)が急伸。17年3月期第1四半期の連結営業利益が117億7500万円(前年同期比33.0%増)と急増し、第2四半期の利益予想を上方修正したことをご好感した買いを集めた。営業利益210億円を230億円(同8.3%増)へ。コストダウンで粗利率が大きく改善した。

カシオ急落し安値 円高で2Q下方修正

3日、カシオ計算機(6952)が急落、年初来安値を更新した。17年3月期第2四半期累計の連結業績予想

を下方修正したことが嫌気された。売上高1750億円を1700億円(前年同期比2.3%減)、営業利益25億円を200億円(同7.5%減)へ。円高の影響で第1四半期の連結決算が、売上高742億8000万円(前年同期比6.5%減)、営業利益71億500万円(同21.6%減)と減収大幅減益になったことを踏まえ、2Q以降の業績を見直した。為替は1ドル1103円、1ユーロ114円を想定している。

ニッセンHDの日足チャート



ニッセンホールディングス(824)

7&iHDとの株式交換比率巡り

8)が乱高下。2日は「セブン&アイ・ホールディングス(3382)」が同社を完全子会社にする

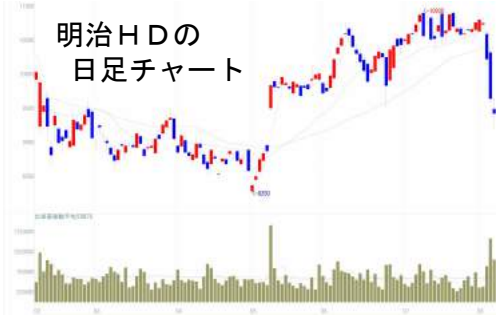
マイクロニクス高

3日、日本マイクロニクス(6871)がストツプ高。「最近」は受注が回復傾向にある」との報道が材料視された。5日に

ニッセンHDは乱高下

方向で最終調整に入った」との報道を受け、株式交換比率への思惑でストツプ高に買われたが、3日は交換比率がニッセンHD1株に対し7&iHD株式0.015株と発表したことから、交換比率に

サヤ寄せするかたちでストツプ安に売られた。同社は7&iHDグループのセブン&アイ・ネットメディアの完全子会社になる予定で、10月27日付けで上場廃止になる。



食品に急落銘柄目立つ 好業績も利益確定急ぐ動き

は食品が値下がり率トップとなった。先に決算を発表した銘柄はいずれも大幅増益で着地したが、好業績は報道や証券会社のレポートなどで

4日、明治ホールディングス（269）、山崎製パン（2212）をはじめ、食品セクターに急落する銘柄が目立った。この日の業種別指数

4日、ダイセル（4202）が急反発、上昇率は21%に迫った。17年3月期第1四半期の連結決算で、営業利益171億6100万円（前年同期比7.7%増）と増益を確保

ダイセル上昇率 21%

4日、ダルトン（7432）がストップ高。イトーキ（7972）がTOBを実施し、完全子会社化を目指すことを発表したことを受け、TOB価格240円にサヤ寄せするかわり買い気配値を切り上げた。

ダルトンはTOB

事前に観測されており、株価が高値圏にあることから、当面の利益確定を急ぐ動きが広がった。業種別では証券や海運、非鉄金属、鉄鋼が値上がり上位に買われ、出遅れセクターへの資金シフトの動きもあるようだ。

マーケットの話題

3日はセレクトショップ大手の7月月次販売の好調が話題になった。2日大引け後に発表したファーストリテイリング（9983）の7月の国内ユニクロ売上高速報では、既存店売上高で前年同期比18.1%増、直営店計で同18.6%増、ダイレクト販売を含む



既存店の好調続くユニクロ店舗

セレクトショップ7月好調

売上高では同19.0%増となっており、7月は前半に気温が高く推移、後半に気温が高くなり、ジャケット、ブラウス、パンツ、スカート、ワンピース、サンダルなどが好調に推移している。

概況（速報）で、全社売上高で前年同期比9.9%増、小売十ネット通販既存店では29.0%増と既存店では2か月連続で前年同期比を上回っている。7月はセール商品に加え、今から着られる晩夏商品が売上の中心となり、メンズのジャケット、カット、パンツ、サンダル、ワイメンズのジャケット、ブラウス、パンツ、スカート、ワンピース、サンダル、ワイメンズのジャケット、ブラウス、パンツ、スカート、ワンピース、サンダルなどが好調に推移している。

FRITEX 指数下支えに貢献？

FRITEX 指数は、半導体製造装置や液晶カラーフィルター製造装置などのコストダウン活動に成果が表れ始めていることや、比較的利益率の高いメンテナンスなどが寄与している。

株価が年初来安値圏にあったことから見直し買いを集めた。為替の影響で売上げは減少したもの、自動車エアバッグ用インフレーターをはじめ、エンジンアンプラスチックや主力

タツモはS高

2Q予想を大幅増額

4日、タツモ（266）がストップ

の酢酸も販売量を拡大。第2四半期累計計画の営業利益300億円に対する進捗率は57.2%となっている。

3日大引け後に今16年12月期の第2四半期累計（1〜6月）連結業績予想を売上高で46億9700万円から47億5700万円（前年同期比19.3%減）へ、営業利益で3億5800万円から6億6400万円（同

2.1倍）へ上方修正したことが材料視された。

トヨタ下ぶれ懸念後退

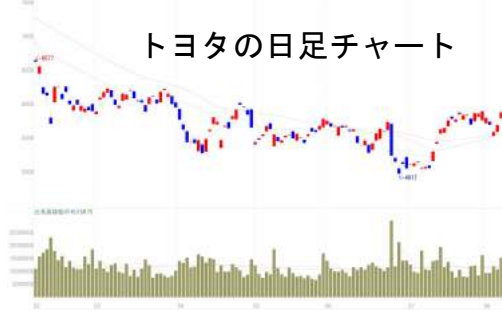
為替レート見直しで今3月期減額

週末5日、トヨタ自動車(7203)が連続して17年3月期の連結業績予想を下方修正した。為替レートを円高方向へ見直したことが要因で、市場の反応が注目されたが、一段の収益下ぶれ懸念が後退したとポジティブに捉えられ買いが先行。日銀によるETF買い入れへの思惑も下値を支えたようだ。

週末5日、トヨタ自動車(7203)が連続して17年3月期の連結業績予想を下方修正した。為替レートを円高方向へ見直したことが要因で、市場の反応が注目されたが、一段の収益下ぶれ懸念が後退したとポジティブに捉えられ買いが先行。日銀によるETF買い入れへの思惑も下値を支えたようだ。

為替前提レートを実勢に沿って、通期平均で1米ドル1102円、1ユーロ1113円へ修正したこと、売上高を2

6兆5000億円から2兆6000億円(前期比8.5%減)、営業利益を1兆7000億円から1兆6000億円(同43.9%減)、最終利益を1兆5000億円から1兆4500億円(同37.3%減)へ引き下げた。



トヨタの日足チャート

グローリ、ツムラ自社株買い

善と株式価値向上に伴う株高を期待した

5日、グローリー(6457)、ツムラ(4540)が大幅高。東証1部値上がり率1位、2位となった。グローリーは発行株数の3.04%にあたる200万株、ツムラは2.55%にあたる180万株の自社株取得枠を設定すると発表しており、需給改善を期待した

5日、グローリー(6457)が急落。17年6月期第1四半期の連結業績は、売上高135億円(前年同期比30.1%減)、営業利益10億円(同77.2%減)と大幅減収減益を予想したことを受け、見切り売りが出たようだ。前6月期はネイティブゲームの不振で24.4%減収、29.6%営業減益で着地しており、先行き一段の収益悪化も警戒された。

グリー見切り売り

5日、グリー(3632)が急落。17年6月期第1四半期の連結業績は、売上高135億円(前年同期比30.1%減)、営業利益10億円(同77.2%減)と大幅減収減益を予想したことを受け、見切り売りが出たようだ。前6月期はネイティブゲームの不振で24.4%減収、29.6%営業減益で着地しており、先行き一段の収益悪化も警戒された。

今週の動意銘柄



始めましょう。
水素水のある
上質な生活



連続生成型電解水素水整水器
TRIM ION HYPER
医療機器製造販売認証番号：226AGBZX00012000



モデル:SHIHO

チャート から読む 騰落銘柄

任天堂 (7974)



25日移動平均線をサポートラインに落ち着く動き。「Pokemon Go」に絡む目先の売りは一巡か。スマホアプリ化が発表された「どうぶつの森」の動向が次なる浮上のキッカケになるか。

アドバンテスト (6857)



業績回復期待を手がかりに出直りの動き強める。好取組みも株価を下支えし、週足に続き日足も再び陽転。上値抵抗ゾーンを上抜き、5日移動平均の上昇で日足は一段高を示唆する。

アプリックス (3727)



7月26日に664円まで上昇後に調整を続けていたが、50日移動平均線である500円トビ台で下げ止まりの動き。IoT用アナログ半導体などの材料が再度話題になれば短期的な上昇も期待できそう。

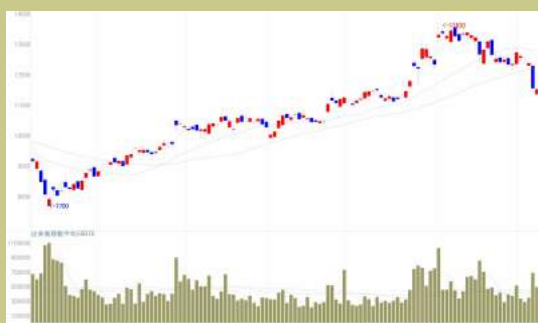
JUKI (6440)



業績悪化に伴う見切り売りに急落。日足に続き週足も再び陰転の方向で、下値模索の軟調展開へ。2月につけた年初来安値677円の攻防がポイントながら、信用買い残の整理が進まず需給が重荷に。

今週の

活躍期待銘柄



ニトリHD (9843)

円高でさらなる採算改善

ニトリホールディングス(9843)は7月4日に1万3630円の年初来高値を更新後、調整を続けていたが50日移動平均線割れの局面は下げ止まりを待って狙っている。

春の新生活シーズンに安定した商品供給を実現したこと、今2017年2月期は第1四半期(3~5月)で連結営業利益は272億5600万円(前年同期比30.9%増)と大幅な増益を達成、円高によりさらなる輸入採算改善が期待され、進捗状況からも通期予想の790億円(前期比8.2%増)は上ブレ期待が高まる。

4月にグループで最大規模となるショッピンモール「ニトリモール枚方」を開店させるなど新規出店に注力、高密度保管型のロボット倉庫「Autostore」稼働効果も期待される。(と)

17年2月期は上ブレ期待



荒川化学 (4968)

PER9倍台で大幅上ブレも

荒川化学工業(4968)は900円台で下値を固め、本格反騰に向かってきた。紙おむつ向け接着剤をはじめ、コーティングや静止薬品いずれも収益性が向上、17年3月期第1四半期は、連結売上高190億円(同1.7%増)と前年度並みながら、営業利益14億1400万円(前年同期比92.5%増)と利益が急増した。第2四半期は営業利益18億5000万円(同2.3%増)、通期38億円(前期比4.4%増)と期初予想据え置いているが、2Qに対する進捗率は76.4%、通期37.2%に達する。

第3四半期にはJSR(4185)から買収する機能性コーティング材料事業も収益に貢献、大幅な利益上ぶれが期待され、現予想でPERは9倍台には強い割安感が働く。PBRも0.5倍割れの低水準だ。(先)

下値固め本格反騰へ向う

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

為替にらみも政策下支え

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

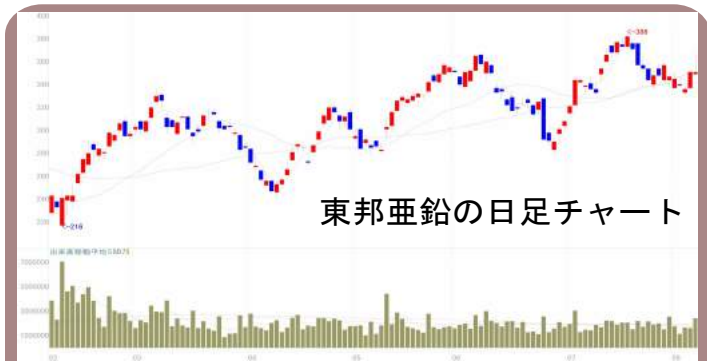
この欄を執筆している4日の日経平均は、米国高や円相場の堅調さを見て反発して始まりました。前日に大きく売られた自動車や電機、金融、不動産、素材、などに押し目買いが入ったり、好決算銘柄にも買い物が入った。反発でした。

しかし、買一巡後は円相場が100円台まで押し戻されて様子見に代わり、日経平均もマインナスに転じる場面がありました。後場に入りまずと円相場が前日の100・72円を割り込まず円安に振れ始めたことをみて再び、

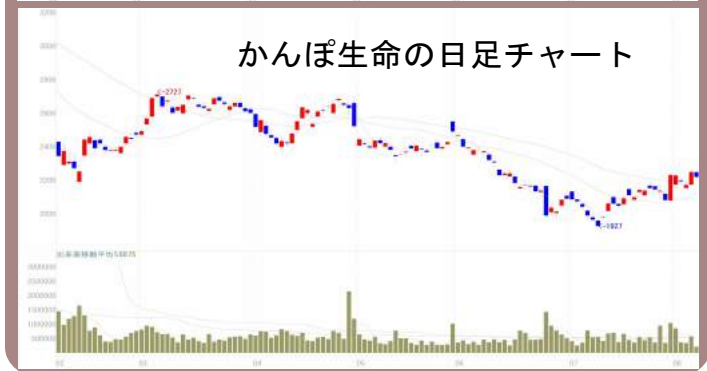
非鉄市況堅調で関連銘柄狙い

日経平均は上げ足を速める動きになりました。また、後場には日銀のETF買いも入ったことも大きく買われた要因になりました。この欄でも推奨した三井化学(4183)が440円まで買われたほか、住友金属鉱山(5713)も買われました。ニッケル市況がポンド当たり4・7ドル、亜鉛が同1・02ドルと高値圏で推移していたことが好感されたようです。

住友林業(1911)はまだ、調整の域からでていませんが、6月安値にほぼ近づいたことで間もなく反発することが予想されますので、続落場面があれば拾う姿勢で対処することです。当面、円相場の円安への動きが続くかどうかは上値追いの力が握っていきませんが、政策を改めて評価する動きが下落場面で



東邦亜鉛の日足チャート



かんぽ生命の日足チャート

高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の 株街往来

～爆買いに疲れた後は?～

週末は取材が

終わって、学生時代の友人と天神橋6丁目商店街の寿司屋に。夜9時というのにその寿司屋は満席で空席待ちの顧客が店外に並んでいた。並んでいる顧客をよく見るとアジア系の外国人観光客。結局、寿司屋の入店を諦めて別の店に行つたが、その話を店主にしてみると、最近では海外のグルメサイトに掲載する飲食店がこの商店街でも増えて、7割が外国人観光客で占めていた店舗もあつたとか。訪日観光客の過去最高が巷で話題になつた昨年、この商店街で外国人観光客を意識することはさほどなかつたが、爆買いに疲れて円高になつた現在は、格安で楽しめる庶民的な場所に癒しを求めているのかなと感じた。

並ばずに入店できた2件目の寿司店では、外国人観光客を見かけなかつたが、その理由を聞いてみると、「海外サイトで宣伝して客数が増えてもそれは一時的だから。常連客に居心地が良い場所を提供することが優先・・・」と語っていた。昨年末、大幅増益だつた生活家電大手が次期は減収減益の予想を発表したことを思い出した。「爆買いは今年がピーク」というのがその理由だつた。1年後、この

商店街の雰囲気はまた変わっているかも知れない。先を読むのは難しい。



New product

マンゴーと生ハムのよくばりトマト冷麺

イトアンド 1日から期間限定で販売



イトアンド(2882)は、トマトラーメン専門店「太陽のトマト麺」において、創業10周年企画第8弾として「マンゴーと

マンゴーと生ハムのマスカルポーネトマト冷麺」を8月1日から期間限定で販売を開始した。

「マンゴーと生ハムのよくばりトマト冷麺」はマンゴーの爽やかな甘味と酸味、噛めば噛むほど旨味が溢れるイタリアンプロシュート、トマトの旨味が凝縮された濃厚な味わいのプレミアムトマトソース。よくばりな贅沢食材を使用した甘味、酸味、塩味、三位一体バランスのとれた、最高傑作のトマト冷麺。販売価格は930円(税込)、8月31日まで発売の予定。

タイで物流施設開発

大和ハウス WHA社と合併



バンナプロジェクトの物流施設

大手のWHA Corp.と合併する。WHA Corp.は、タイで物流施設や工場の開発等を展開する。

「パティ」を設立したと発表した。新たに設立した「WHAダイワロジスティクスパティ」は、7月27日より、WHA社が開発中の「レムチャバンプロジェクト」、バンナプロジェクト」に参画し、物流施設の開発・運営・管理・賃貸を行う。また、同社グループが保有する経営資源(物流施設開発に関する調査、設計、施工、建物の管理・運営に関するノウハウ)を組み合わせ、海外で物流施設等を検討している日系企業や世界各国の企業様に対して誘致活動を行っていく。出資比率は大和ハウス49%、WHA Corp.51%。

企業レター

大和ハウス工業(1925)は、タイで物流施設や工場の開

敏腕先物トレーラー

ハチロクの裏話

買い余力と思われ、実際は下値

次の転換期は19日前後

海外発の仕掛けに注意

「期待で買って現実で売る」まさに相場の格言通り動きた相場であった。7月末の日銀金融政策発表前までは期待もあり買進されたが、8月に入り経済対策が発表されると一気に失速、木曜日には1万5880円まで売込まれる状態であった。決定会合ではETFの買い入れを約倍増の6兆円と入れているが、今までの買入れ分約2兆円を差し引くと残高は約4兆円であり、これを年末までに使い切るとすると、1週間に1000億円分ETFを購入し続ける必要がある。

不安が減少しただけで上値を追う主体とはなりづらく、その結果、ETFの買いが出動する前場の安い日に後場から値を戻すパターンが増えることであろう。政府が大規模な経済対策を発表するので、日銀策としても何か材料を出さなくてはいけない状態ではないかと思われ、逆手には「日銀にはもう手がない」と思われたのかもしれない。相場は日銀追加金融緩和の期待で買われた7月21日の1万6938円を高値に調整を続けている。

今年度の相場は約20日の高値や安値のピークを作っている。ムになってきており、このパターンでいくと8月19日前後に次の転換期を迎えやすい。休みで機関連投資

今週のスケジュール

- ・ 8日 6月国際収支 (8:50)
7月28・29日開催の日銀金融政策決定会合「主な意見」
中国7月貿易収支
- ・ 9日 7月マネーストック
中国7月消費者物価 (10:30)
中国7月生産者物価 (10:30)
- ・ 10日 6月機械受注 (8:50)
7月国内企業物価指数 (8:50)
7月都心オフィス空室率 (11:00)
6月第三次産業活動指数 (13:30)
- ・ 11日 国民の祝日「山の日」発施行
- ・ 12日 オプションSQ
中国7月鉱工業生産 (11:00)
中国7月小売売上高 (11:00)
中国7月都市部固定資産投資 (11:00)
ドイツ4-6月期GDP (15:00)
ユーロ圏4-6月期GDP改定値
米7月小売売上高、米7月生産者物価



家も長期休暇に入ることが多く、商いが閑散となる週ではあるが、アノマリーから言っても動きやすい週である。海外発の為替を絡めた仕掛けには十分注意が必要である。(ハチロク)

編集後記

前週の東京市場は日銀によるETFに下値を支えられた。木曜日は1日あたり過去最高となる707億の買い入れが行われ、週末に減額修正のトヨタが上昇したの、ETF買い入れの思惑が働いたことも一因と見られている。上値を買い上げる性格のものではなく、市場のダイナミズムを損なうとの見方もあるが、マーケットフレンドリーであることは確か。主力株が底上げされれば、中小型株にも水準訂正余地が広がり、好循環が生まれ、好業績銘柄の押し目にもチャンスがありそうだ。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。